

当院の医療の質

臨床指標 (Quality Indicator) とは、医療の質を評価する指標のことです。

臨床指標は、病院の機能や地域特性の影響を受けるため、他院の数値は参考にしますが、主として自院での経時的な数値の推移を把握・評価します。

当院は、評価結果を利用することで、医療の過程や結果での課題、改善点を抽出し、改善活動を行うことで医療の質の向上を実践していきます。また、積極的に指標を公表することで医療の透明性の確保に努めてまいります。

I. 病院全体の指標

- 1 患者満足度調査 (入院患者・外来患者)

II. 医療安全

- 2 入院患者の転倒・転落発生率
- 3 入院患者での転倒転落によるインシデント・アクシデント影響度分類レベル3b以上の発生率
- 4 リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

III. 感染管理

- 5 血液培養2セット実施率
- 6 広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

VI. ケア

- 7 d2 (真皮までの損傷) 以上の褥瘡発生率
- 8 65歳以上の患者の入院早期の栄養ケアアセスメント実施割合
- 9 身体拘束率

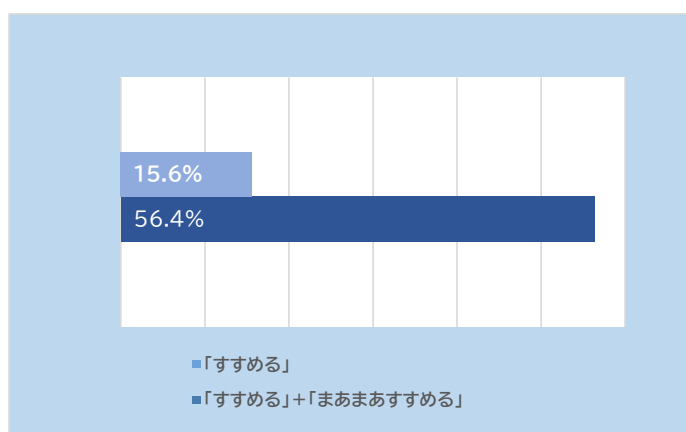
I. 病院全体の指標

1.1 外来患者満足度

当院で実施した外来患者満足度調査において、「京都田辺中央病院を親しい方にすすめようと思いますか？」という設問に対して、「すすめる」+「まあまあすすめる」と回答した人と「すすめる」と回答した人の割合です。当院が提供する患者サービスの質を測る指標として、患者さんからのアンケートによる患者満足度を参考に病院全体でサービスの向上に取り組んでいます。

分子	「京都田辺中央病院を親しい方にすすめよう と思いますか？」という設問に対して、 「すすめる」+「まあまあすすめる」と回答 した人と「すすめる」と回答した人
分母	患者満足度調査に回答した外来患者数

年度	「すすめる」+ 「まあまあすすめる」	「すすめる」
2022年度	56.4%	15.6%

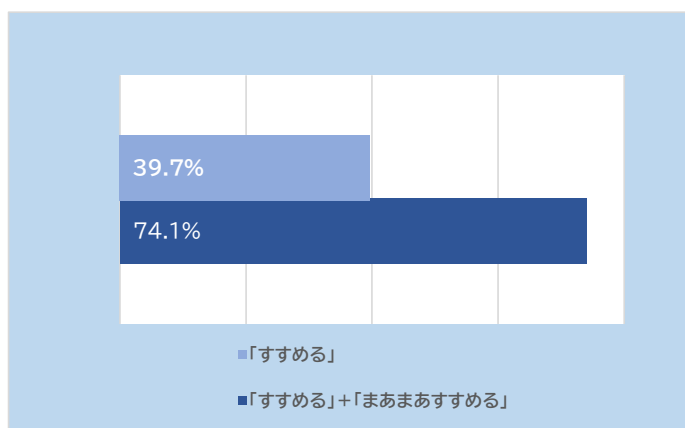


1.2 入院患者満足度

当院で実施した入院患者満足度調査において、「京都田辺中央病院を親しい方にすすめようと思いますか？」という設問に対して、「すすめる」+「まあまあすすめる」と回答した人と「すすめる」と回答した人の割合です。当院が提供する患者サービスの質を測る指標として、患者さんからのアンケートによる患者満足度を参考に病院全体でサービスの向上に取り組んでいます。

分子	「京都田辺中央病院を親しい方にすすめよう と思いますか？」という設問に対して、 「すすめる」+「まあまあすすめる」と回答 した人と「すすめる」と回答した人
分母	患者満足度調査に回答した入院患者数

年度	「すすめる」+ 「まあまあすすめる」	「すすめる」
2022年度	74.1%	39.7%



Ⅱ. 医療安全

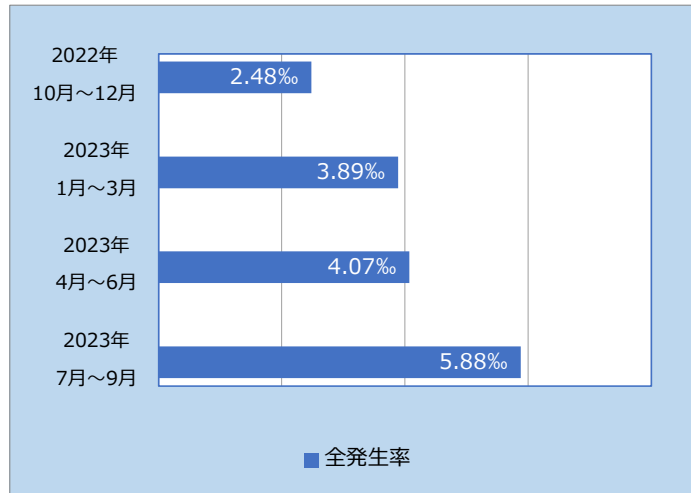
2. 入院患者の転倒・転落発生率

入院中の患者さんの転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなど様々なものがあります。

転倒・転落によって患者に傷害が発生した率と、患者への傷害に至らなかった転倒・転落事例の発生率との両者を指標とすることに意味があります。こうした事例分析から導かれた予防策を実施して転倒・転落発生リスクの低減に努めています。 ※ 発生率がかなり低いため、単位はパーミル（1000分の1）で表記

分子	入院患者に発生した転倒・転落件数
分母	入院延べ患者数 (入院患者以外は除外)

期間	全発生率
2022年 10月～12月	2.48‰
2023年 1月～3月	3.89‰
2023年 4月～6月	4.07‰
2023年 7月～9月	5.88‰



3. 入院患者での転倒転落によるインシデント影響度分類レベル3 b以上の発生率

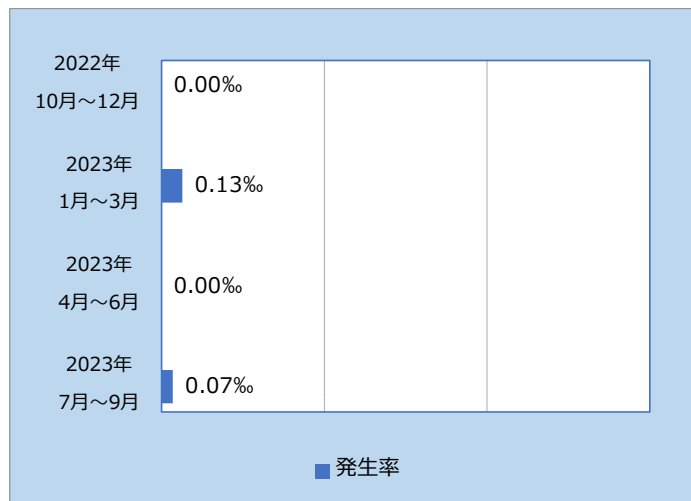
インシデント影響度分類レベル3 b以上とは以下の通りです。

- ・レベル3 b：医療事故により濃厚な処置や治療を要した（バイタルサインや全身状態の著明な変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、骨折など
- ・レベル4：医療事故により永続的な障害や後遺症が残った
- ・レベル5：医療事故により死亡

※ 発生率がかなり低いため、単位はパーミル（1000分の1）で表記

分子	入院患者に発生したインシデント影響度分類レベル3 b以上の転倒・転落件数
分母	入院延べ患者数 (入院患者以外は除外)

期間	発生率
2022年 10月～12月	0.00‰
2023年 1月～3月	0.13‰
2023年 4月～6月	0.00‰
2023年 7月～9月	0.07‰

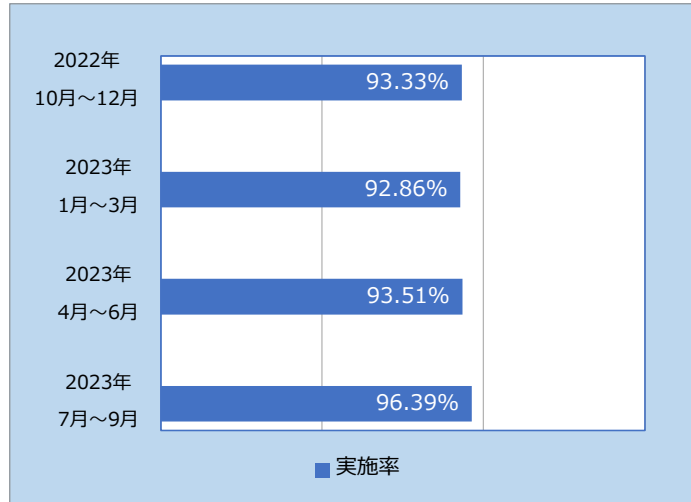


4. リスクレベルが「中」以上の手術を施行した患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

手術中は、長い間ベッドに横たわり同じ体勢をとり続けること、手術の影響で止血機能が亢進することから、血液の流れ（血流）を妨げて静脈血栓症が発生しやすくなります。足にできた血栓が血流によって肺にたどり着くと「肺血栓塞栓症」がおこります。これを防止するために、予防する取り組みを行っています。

分子	分母のうち、肺血栓塞栓症の予防対策が実施された患者数
分母	肺血栓塞栓症発症のリスクレベル「中」以上の手術を施行した退院患者数

期間	実施率
2022年 10月～12月	93.33%
2023年 1月～3月	92.86%
2023年 4月～6月	93.51%
2023年 7月～9月	96.39%



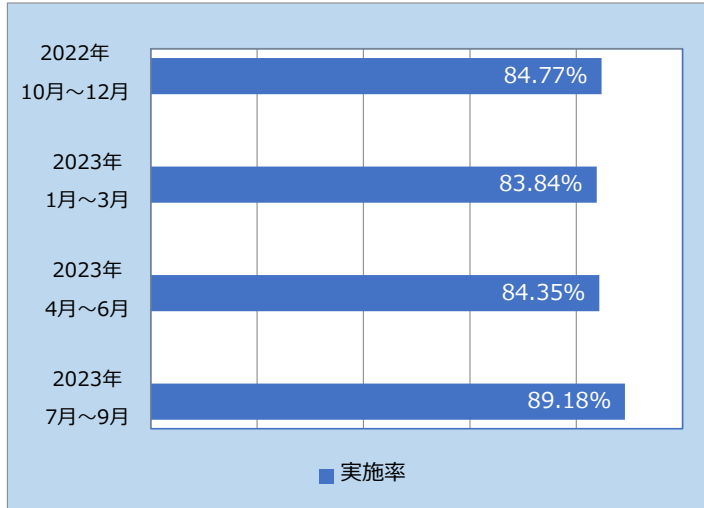
Ⅲ.感染管理

5.血液培養2セット実施率

血流感染症の診断を行う上で血液培養の実施は必要不可欠です。但し、1セットのみの採取の場合は、診断が不確かなる可能性があり、2セット採取することでより感度が高まるため、2セット以上採取することが推奨されています。

分子	血液培養オーダが1日に2件以上ある日数
分母	血液培養オーダ日数

期間	実施率
2022年 10月～12月	84.77%
2023年 1月～3月	83.84%
2023年 4月～6月	84.35%
2023年 7月～9月	89.18%

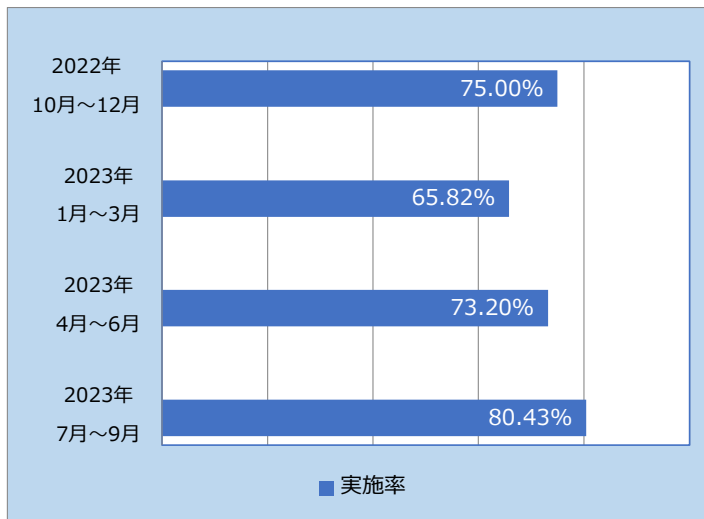


6.広域スペクトル抗菌薬使用時の細菌培養実施率

広域スペクトル抗菌薬を使用する際、投与開始時に血液培養検査を行うことは、抗菌薬を適正に使用するために大切なことです。感染の原因となっている菌を同定することで、その菌の治療に適した抗菌薬の選択につなげることが可能となります。

分子	分母のうち、入院日以降抗菌薬処方日までの間に細菌培養同定検査が実施された患者数
分母	広域スペクトル抗菌薬が処方された退院患者数

期間	実施率
2022年 10月～12月	75.00%
2023年 1月～3月	65.82%
2023年 4月～6月	73.20%
2023年 7月～9月	80.43%



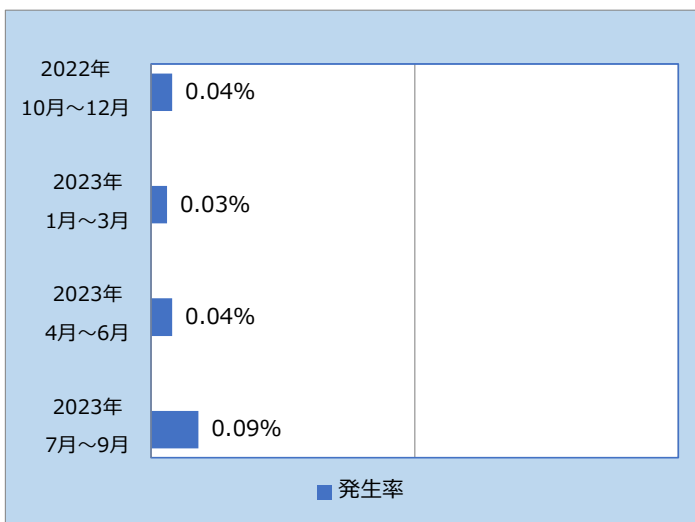
IV. ケア

7.d 2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率

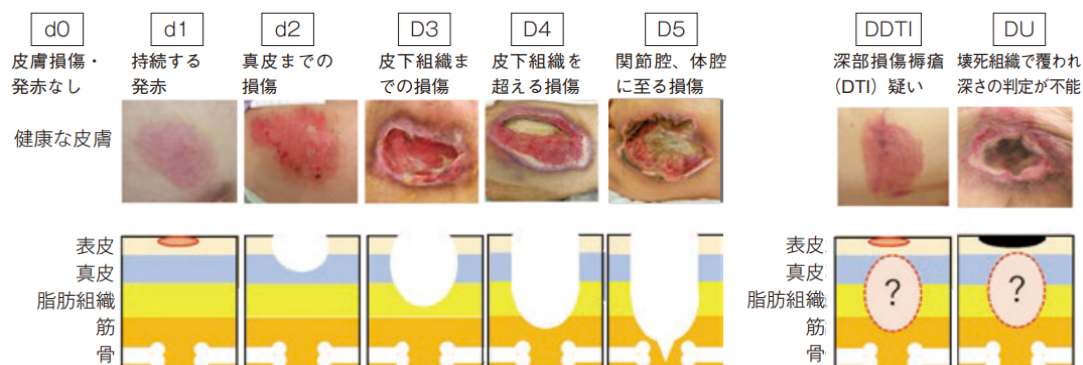
褥瘡は患者さんのQOL（生活の質）の低下をきたすとともに、感染を引き起こすなど治癒が長期に及ぶことによつて、結果的に入院期間の長期化や医療費の増大にもつながります。そのため、褥瘡予防対策は、提供する医療の重要な項目の一つです。本指標は、患者さんが褥瘡を発生する率を見ているものであり、日々のケアの質に関わるものです。

分子	d 2（真皮までの損傷）以上の院内新規褥瘡発生患者数
分母	入院患者延べ数

期間	発生率
2022年 10月～12月	0.04%
2023年 1月～3月	0.03%
2023年 4月～6月	0.04%
2023年 7月～9月	0.09%



DESIGN-Rによる褥瘡の深さ基準



8.65歳以上の患者の入院早期の栄養アセスメント実施割合

入院して早期に低栄養リスクを評価し適切な介入をすることで、患者さんの栄養状態が改善し、その成果として予後の改善や合併症および感染症の発症率の削減、入院期間の短縮につながります。

分子	分母のうち、入院3日目までに栄養ケアアセスメントが行われたことがカルテに記載された患者数
分母	65歳以上の退院患者数

期間	実施率
2022年 10月～12月	100.00%
2023年 1月～3月	100.00%
2023年 4月～6月	100.00%
2023年 7月～9月	100.00%



9.身体拘束率

身体拘束は、制限の程度によって、二次的な身体的障害が生じる可能性があるため、代替方法が見出されるまでのやむを得ない処置として行われるものです。できる限り早期に他の方法に切り替えるよう努めています。

分子	分母のうち、物理的身体拘束を実施した患者延べ数
分母	入院患者延べ数

期間	実施率
2022年 10月～12月	14.98%
2023年 1月～3月	16.54%
2023年 4月～6月	20.69%
2023年 7月～9月	19.37%

